

平成26年度キッチン、浴室のお手入れ、点検、 リフォーム意識等に関する調査 (既婚女性に対する意識調査)

一般社団法人リビングアメニティ協会 キッチンルーム部会・バスルーム部会

キッチンルーム部会並びにバスルーム部会の合同で、既婚女性に対する意識調査を実施しました。調査結果の概略は以下のとおりです。

- ・不具合経験と修理経験の内容
- ・リフォーム実績、今後のリフォーム意向 など

・調査概要

1) 調査の目的及び調査内容

キッチン：

ALIAの平成26年度の事業計画を踏まえ、キッチンのお手入れ・点検の実態並びに悩み事等を調査し、キッチンリフォーム促進・市場拡大のための製品開発に資する基礎資料の収集・整理を行うことを目的とした。

浴室：

ALIAの平成26年度の事業計画を踏まえ、浴室のお手入れ・点検の実態並びに修理経験等を高齢者や子育て世帯などの視点も含めて調査し、浴室のリフォーム促進・市場拡大に資する基礎資料としての収集・整理を行うことを目的とした。

2) 調査方法及び調査対象

- ・インターネットベースのモニター集団に対するWEB調査
(モニター集団から調査対象の条件に合致する人を予備調査により抽出し、本調査を実施)
- ・30才～60才代の既婚女性(持ち家居住者)
単身世帯は対象外
- ・調査対象数(回収数)：1,095人
- ・調査実施：2014年10月

3) 調査項目

キッチン：

- ・使用、お手入れ、点検の実施者と実態
- ・お手入れ、点検の充足感、悩み事、障害、活性化要因
- ・リフォーム・買替に対する関心度・今後の意向など

浴室：

- ・お手入れ、点検の実施者と実態

・結果のまとめ(抜粋)

1. キッチン

【キッチンルームのお手入れ、点検、リフォーム意識等】
調理や食後の後片付けなどの主担当は“本人(女性)”。たまに“調理”や“片付け”をする“配偶者(男性)”は、半数程度の水準

女性の社会進出に関する議論において、“女性の家事負担の軽減”が俎上にあがるケースがある。今回の調査においても、お手入れ・点検を実施しているのは本人(女性)が中心で、配偶者(男性)の参加は限定的であるという結果であった。

お手入れ・点検の促進に際しては、“誰でも簡単にお手入れや点検が行える”といった仕組み作りを進め、配偶者(男性)や子供といった回答者以外の居住者が家事参加・共働化を図っていくことも有効であると考えられる。

お手入れや点検の実施上の障害は、“負担感が強い(面倒)”や“時間的な余裕”

現在行っているお手入れが“十分だと思わない”と認識している人の方が多いという結果であるが、お手入れや点検の実施上の障害は、“負担感(面倒と感じる)”や“時間的な余裕のなさ”で、これらは特に若い年代で比率が高い。

積極的にキッチンのお手入れを実施していくために必要なこととしては、“適切な洗剤・洗浄器具や点検キットなど簡単に実施できる用具が提供される”をはじめ、“必要性が広く公表されている”、“インターネットで必要な情報の入手が簡単にできる”、“家族が分担して、楽しく実施できるような方法が提供される”などが続いており、具体的なツールや的確な情報提供とともに、心理的な負担感の軽減も重視されている。

お手入れ積極層の方が、よりキッチン設備に関する関心が高い

“こだわりはないので、できるだけ安価なもの・価格がお手頃なものにしたい”という意見は60代では否定的にとらえており、お手入れや点検を積極的に行っている層の方が、キッチンに対する意識や関心も高くなっていく状況がうかがえる。

2. 浴室

【浴室のお手入れ・潜在リフォームニーズ等】

浴室は、お手入れの配偶者(男性)の参加率が高い、
“日常的に点検はしない”は半数近い

浴室の“お手入れ”を日常的に行っている配偶者(男性)は15.9%、たまに行っているのは43.1%で配偶者(男性)の参加率も高い。しかしながら、浴室の場合は、“日常的に点検はしない”が半数近い比率である。項目別にみると、浴室のお手入れで多いのは“浴槽内”“床”などであるが点検では“特に意識して実施していない”という比率が7割を超える項目が多い。

これまでの浴室での不具合は、“照明”や“パッキンシール材の切れ”などが多い

これまでの浴室で生じた不具合としては、“照明が点灯しない”、“床・壁・窓等パッキン・シール材が切れている”、“浴槽に変色・ひび割れ・膨れがある”、“水栓・シャワーで湯温調整不良がある”、“排水部(排水トラップ)から下水臭がする”などが多い。不具合が生じた使用開始後の年数は、“10年目頃”と回答された項目が多いが、“照明が点灯しない”、“排水部(排水トラップ)から下水臭がする”は、“5年目以内”からでも不具合が生じており項目によるバラつきも大きい。不具合に対しては、業者への修理依頼が行われているが“どうしたらいいのかわからないのでそのまま”といった回答もあり、応急対応や修理業者への誘導を図っていくための情報提供が不足しているケースも少なくないと考えられる。

これまでに浴室のリフォームを“実施した”のは17.8%、“意向あり”は7.3%

浴室のリフォームは、在来浴室からのユニットバス化が多いが、リフォームを実施した際に重視した設備としては、“滑りにくい浴槽・床”、“足を伸ばせる長さの浴槽”、“バリアフリータイプの浴室”、“断熱タイプの浴槽”などが多いのに対して、今後リフォームするとしたら採用したい設備としては、“清

掃性に優れた浴槽”、“バリアフリータイプの浴室”、“清掃性に優れた床”など、清掃性への配慮が上位となっている。また、浴室のリフォームの実施経験や今後の実施意向のない人に比べ、リフォーム経験のある人の方が、お手入れを意識的に実施しており、“リフォーム実施者はお手入れに対する意識も高い”という結果であった。

3. キッチンと浴室の比較

日常にお手入れをする人は、キッチンでは“本人(女性)”が91.6%であるのに対して、浴室では“本人(女性)”は80.5%と比率が低くなり、その分“配偶者(男性)”の比率(キッチン3.1% 浴室15.9%)が高くなるなど、キッチンよりも浴室の方が“配偶者(男性)”が行うケースがやや多い。

日常的な点検を“誰もしない”は、キッチンでは29.3%であるが、浴室では46.3%となっており、日常的な点検の実施率は浴室よりもキッチンの方が高くなっている。

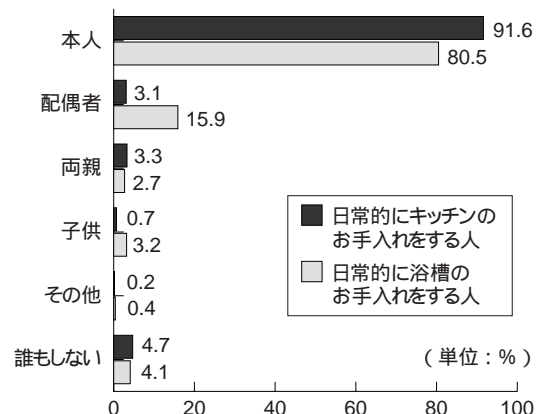


図1 日常的に【お手入れ】をする
〔キッチンと浴室との比較〕

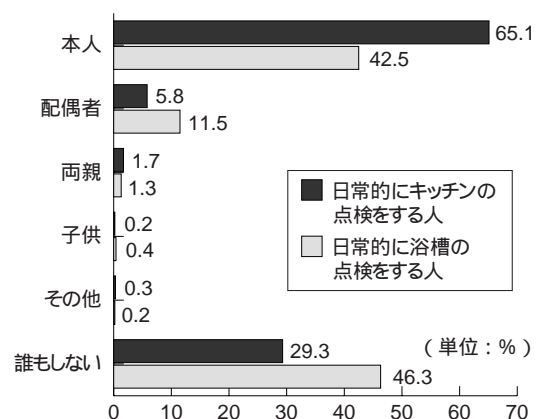


図2 日常的に【点検】をする
〔キッチンと浴室との比較〕